

目黒寄生虫館月報

昭和35年3月10日発行・毎月1回10日発行

第13号

昭和35年3月

医科学生の医動物学レポートに関する管見

福井玉夫

私は東邦大学医学部で1年の前期だけ医動物学の講義をして居ますが、その試験の前のレポートを検しての管見を述べて見ます。テーマとして何でもよいから人体に医学的に有害な動物に就いてレポートを出すように申付けたのであります。57のレポートを調べて見ますと学生の選んだ動物の種類等の数は多いものから列挙しますと次のようであります。蛔虫9, 日本住血吸虫8, 十二指腸7, 線虫類5, 蚊5, 吸虫類4, 蠅3, マラリア2, 蛭虫2, 顎口虫2, リケッチア1, トリコモナス1, 糸虫類1, 有鉤糸虫1, 無鉤糸虫1, ゴキブリと蚊1, 病害蠕虫1, 予防と駆虫1, 人体寄生虫調査1, 昆虫の毒1。これを見ますと学生の関心がやはり大体重要性に一

致しているような処が見られます。教養課程から専門課程に移ったばかりの学生ですから自分の調査したレポートが書けるわけはありませんので、大多数は若干の教科書や参考書の写し書きですが、それでも勉強にはなります。唯1例社会衛生の研究に教授の調査にお伴してまとめたものと、化学を一通り学んだ学生が昆虫の毒について化学的の考察をまとめているのは一寸異色であり興味があります。実習の伴わない講義ですからあまり効果は期待出来ませんが、将来医学に従事する学生が一層此方面に関心を持つことを希望するものです。

(東邦大講師・理博)

北村精一博士来館

2月5日長崎大学学長北村精一博士が寸暇をさいて夕刻来館，館内を参観された。

金沢文庫長来訪

2月21日金沢文庫長熊原政男氏来訪，館長の案内で参観された。

保坂幸男氏参観

予研保坂幸男氏は2月23日知人4人を案内陳列室を参観された。

郷土研究会員参観

2月21日目黒区郷土研究会一行20名は折柄の強風を冒して来られ，館長の案内で階上特別陳列室まで参観された。

文 献 寄 贈

岡本広太博士から…………ウエステルマン氏二口虫の船員の脳髓及其他の諸組織に寄生したる興味深き実例の研究他2篇

板垣四郎博士から…………Studies on the Ticks of the Domestic Animals in the Far East 他1篇

金沢大堀克重博士から…………北国新聞1
札幌医大図書館から…………札幌医学雑誌 Vol.16 #1
~2
吉田貞雄博士から…………祝賀記念誌欧文篇1
予研寄生虫部から…………日本における日本住血吸虫症の予防対策他183篇
帆足延夫氏から…………海員2月号1

標 本 寄 贈

農工大家畜病理学教室から…………ネコ回虫1，ムクドリ
の条虫1

寄 贈

大磯野村美智子氏から…………ヤマシギ1，アオクビ1
沼田仁吉氏から…………宮嶋幹之助博士写真乾板
1

出 版 関 係

下記原稿の組版が出来上ったので原稿と共に初校を各著者へ発送した。

- ①宮崎一郎 その他の肺吸虫
- ②杉浦三郎 日本住血吸虫症の臨床と治療

生 物 学 同 好 会

2月23日開催杉靖三郎教授の生理学第2講米養学について，最も新しい学説による解明に聴講生一同，大いに感銘した。

ON SOME SPECIES OF ACANTHOCEPHALANS PRESERVED IN
THE MEGURO PARASITOLOGICAL MUSEUM

MIDORI KIHARA

There are many specimens of parasitology collected and exhibited to the public in this museum. On some clearly distinguishable species of acanthocephalans among them, I shall make a report, continued from the last one on some acanthocephalans found in marine fish.

- 1) *Rhadinorhynchus Katsuwonis* HARADA, 1928 : male
- 2) *Filisoma japonicum* FUKUI et MORISITA, 1936 : female
- 3) *Arhythmacanthus fusiformis* YAMAGUTI, 1935 : male
- 4) *Rhadinorhynchus selkirki* VAN CLEAVE, 1920 : male

First of all, an acanthocephalan is put in fresh water until it proboscis is everted and pulled out with a pin in case of it not being everted. Then it is fixed with the 70% alcohol, stained with Delafield's haematoxylin, and mounted in balsam. When not stained, it is made transparent with lacto-phenol.

- 5) *Centrorhynchus elongatus* YAMAGUTI, 1935

Centrorhynchus elongatus YAMAGUTI, 1935 (for short *Cent. elong.*) is parasitic on the small intestine of a bird belonging to the *Strigidae*. For the past two years I anatomized the thirteen owls, the *Strix uralensis hondoensis* (CLARK), in 11 of which I found 458 *Cent. elong.* in total. The number of the parasites is 130 at maximum, 11 at minimum, and the mean number is approximately 42 per bird.

male. The trunk is 15~32 mm long by 0.5~0.9 mm wide, and one third or one fourth of the forepart is somewhat swollen. The shape of the proboscis is rather oval than globular and almost indistinguishable from the conical neck. So, both put together have 26~32 longitudinal rows armed with 13~18 hooks each. All the hooks in the proboscis are nearly the same in length, but they become gradually larger and fewer (that is, the space between the hooks is getting wider) in proportion to coming down. The lower hooks are obviously curved downward. The hooks of neck are slightly smaller than the proboscis hooks. The doublewalled proboscis receptacle is clubate, 1.0~1.2 mm long by 0.3~0.4 mm wide. The lemnisci, measuring 1.8~2.7 mm long by 0.3~0.5 mm wide, are fingershaped and fairly longer than the proboscis receptacle, and almost reach the fore testis. The oval, egg-shaped testis, each of which is almost equally 0.6~1.2 mm long by 0.3~0.5 mm wide, are placed tandem or somewhat obliquely. There are four cement glands, which extend to the length of 7.6~18.2 mm inclusive of ducts, slightly overlapped or adjoined by the hind testis. The elongated Säfttigans pouch is 1.6~3.1 mm long by 0.2~0.6 mm wide. The muscular bursa cap has 12~14 digitiform rays. The genital pore is terminal.

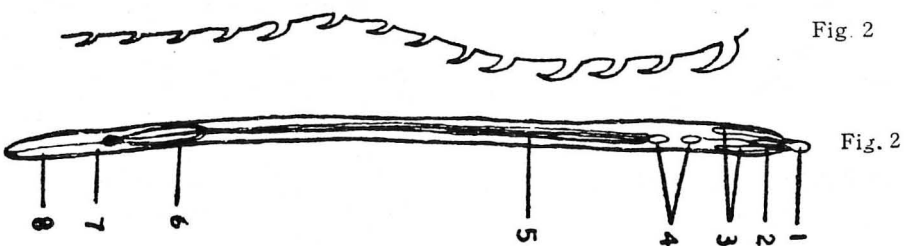


Fig. 1. *Centrorhynchus elongatus* YAMAGUTI, 1935 : male

Fig. 2. Row of hooks, side view.

- | | | |
|-------------------------|------------------------|--------------------|
| 1 proboscis | 2 proboscis receptacle | 3 lemnisci |
| 4 testes | 5 cement glands | 6 Säfttigans pouch |
| 7 muscular cap of bursa | 8 bursa copulatrix | |

ニューオルリンズ通信⑥ 大島智夫

今回は少し学問の事をはなれ小生の当地で見聞した事を御伝えします。大学の教室にはニューオルリンズ又はルイジアナ出身の人は一人も居りませんし、全米もしくは諸外国から来られている人々の集りでありますので特にローカルカラーは見あたりませんが町に一步出るとやはり当地独特の変った風習が目につきます

第一町の角という角に銅像がたっています。一番立派な高くそびえたっているのが南北戦争の英雄リー將軍でその他は Our Confederation Soldier であります。国で定めた休日であるリンカーン誕生日は無視し一月十九日リー將軍誕生日は休日であります。リンカーンに対してはカトリック教徒がマルチンルターに対していただいているような感情をもっており、昨年十一月十八日に今日はリンカーンのゲティスバーグの演説の記念日 (Government of the people, for people by people という有名な演説です) だが何もしないのかとある人に聞いたところはきすてるように「彼は共和党だ、俺たちは民主党だから彼の事など知らなくてもかまわん」という返事で全くびっくりしました。「ダムヤンキー」という言葉は今日でも聞きます。南部と北部これはもし交通が発達せず、通信が不自由のままであったならこれは一つの国のなかに二つの違った国といった状態とどまっただと思います。知識階級は国内を次々により職場を求めて移動しますから、コスモポリタン(アメリカ国内で)的ですが移動しない大部分の土着の人にとっては南部と北部という對抗意識は根強いものがあります。先日テキサスで南北戦争生き残りの最後の一人が百十才とかで死にましたが、彼は別に手柄をたてたわけでもなく、後方勤務をしていたにすぎないのに、知事がでむいたり儀仗兵がでたり、国葬のようにして大げさな葬式をしたようです。

この辺まではユーモアもあって面白いですがこれが黒人問題に及んでくると深刻そのものの対立となります。

今回のルイジアナの知事選挙の最有力候補者のスローガンの一つは「Maintenance of Segregation」であります。この辺になってくると我々にとっては人間というもの如何に偏見のとりこになるものか、他山の石として反省すべき材料にしかありません。

(公衆衛生院, 医博)

目黒寄生虫館建設記(10)

館の建築が進行するにつけて、中のパネルの資料をいそがねばならぬ。

31・1・3: フィラリアの資料は、伝研の佐々博士の研究室で提供をうけたものと、長大の北村精一学長にお

願いして構成することにした。

1・9: 肝吸虫の資料を整理しはじめる。

1・13: 大分岡本さんの病状が落ち着いたので、岡本さんを案内して屋上にのぼる。小寒い日ではあったが、はるかに目黒一円を見渡して何と気のはれはれすることか。クロード君に壁画をかいてもらう位置などをきめる。

1・19: いよいよ外壁も出来上ったので周囲の板囲をとった。全容があきらかとなりわれ乍ら愉快であった。

1・21: 2階の間じきりを作りはじめる。

1・30: 読売新聞社より電話があった。自慢のアルバムという記事を書きたい、とのことであったが、未完成の故をもっておことわりする。

1・31: 佐野氏鯨研に出張。

2・1: 京都の小林晴治郎先生から「マメタニシ」の標本がおくれた。

2・2: 花壇ができた。同日リストを作る 190 点となった。

2・7: 佐野氏上野動物園に中川志郎先生を訪ねる。標本分譲をうけるため。

2・8: 実験室の整備のため、実験台や、戸棚を運びこむ。

2・9: パネル原稿として蛔虫の項を書きあげる。

2・14: 斎藤潔先生をお訪ねする。

2・16: 小林晴治郎先生よりお写真と署名を戴く、館内展示のためである。

2・22: 大野善右衛門先生が札幌より来館。衛生昆虫の展示法について親切な助言をいただく。

2・26: 床のアスファルト塗りなどで夜業につく夜業で館内の整備はすすめられている。

3・2: 遂に建築は一応完成して、柴田組より正式に引渡しをうける。着工より約半年を経たわけである。

この間には標本採集のために連日鳥獣の解剖をつづけてきた。鈴木俊邦氏と深夜の目黒駅会談がしばしばおこなわれたわけである。(亀谷)

特別展示バラサイト「鉤虫症」

都市においては次第に陰のうすくなった鉤虫の問題も、一度び足を近郊にすすめると看過することのできぬ重大問題となる実情です。特に東京に隣接する埼玉、茨木等の県下には多数の感染者をみるのですから、これに関する知識の普及はやはり大切なこととおもいます。

今回は国立予防衛生研究所寄生虫部の厚意によって資料の呈供をうけ一般に展示して参考にご供したいとおもいます。

展示期間、35年2月—3月

展示品、鉤虫症の臨床、治療等に関する資料、標本、他動物の鉤虫等。